

平成 27 年度 第 1 回広報・広聴委員会会議報告

日 時 平成 27 年 5 月 27 日（水）13:30～17:00
場 所 福井県文書館（県立図書館小会議室）
出席者 辻岡委員長、相京、川上、坂口、高木、深井
藤吉、柳沢（事務局）

○開会あいさつ（辻岡委員長）

○自己紹介

○委員会規則について

- ・会則における委員会設置の根拠、委員会運営要領などについて説明した。
- ・互選により高木委員を副委員長（編集長）に選出した。

○報告・協議

（1）報 告

a 会誌『記録と史料』第 25 号について

- ・26 年度事務局（高木委員）から編集・発送の経緯を説明した。
- ・正誤表は、会誌 26 号発送時に同封すること（現段階では、p.86 の大磯宿小島本陣資料目録の価格のみ）。

b 会報第 97 号について

- ・26 年度事務局（高木委員）から編集・発送状況を説明した。
- ・この号を含む過去 3 号の会報印刷では、経費節減のために表紙が 2 色刷りから 1 色へ変更され、写真がやや不鮮明となった。業者の選定にあたっては、写真印刷の精度が改善されることが望ましい。

c 全史料協の組織体制について

- ・全史料協の役員名簿をもとに、第 21 期の体制について確認した。

d 全史料協ホームページについて

- ・年度当初に第 21 期役員に関連する更新を実施。
- ・機関会員 132 機関の連絡先、リンク先を点検。サーバの契約は 4 月末日に更新した。

（2）協 議

a 平成 26 年度事業結果報告・決算報告について

- ・決算については 4 月 30 日更新版で利息等若干の修正あり。
- ・これを含め会長事務局に報告済みで、6 月 10 日の役員会で承認を受ける予定。

b 平成 27 年度事業計画について

- ・委員会会議の 2 回目は、京都大学大学文書館で 8 月上旬に開催することになった。
- ・3 回目は、例年通り大会の開催中に実施するが、秋田大会のスケジュールによって、日程を検討する。
- ・会誌等の Web 公開にむけて、今後の原稿依頼の際の具体的な手続き、バックナンバーの Web 公開の手続きを検討していく（全史料協への著作権譲渡は行わない方向です。すすめることは、26 年度 2 月役員会で確認済み）。

- ・今年度は、会誌バックナンバーを中心に事務局で刊行物のデジタル化を進める（いわゆる自炊）。

- ・pdf化にあたっては、テキスト認識（OCR）が比較的誤読が少ないかたちで実行できるよう、解像度やカラーモードを工夫する。

c 平成 27 年度予算案について

- ・予算案は、担当事務局の変更によって、臨時職員雇用を中止し新たに刊行物発送を委託することにより、賃金・委託料に変更があり、全体として 284 千円ほど削減されることになる。

d 会報第 98 号の編集

- ・12 頁で構成する。予算をこえるようであるならば、1 色刷りでもしかたがないことを確認した。

- ・次のようなスケジュールで進行する。

構成決定：6 月中旬、原稿依頼：6 月下旬、原稿締切：8 月上旬、
発行：9 月末日

- ・この 3 月に Web 掲載された調査・研究委員会編『公文書館機能ガイドブック』は、公文書館機能を実現するためのさまざまな在りようを例示し、非常に評判がいい。これをめぐってどなたかにコメントをもらうことはできないか、検討する（3 頁分）。

- ・編集後記の執筆は、編集の進行状況をみながら高木副委員長が提案する。

e 会誌『記録と史料』第 26 号の編集

- ・過去の会誌の特集テーマを概観し、取り上げるべきテーマについて議論した。

このなかで、戦後 70 年という時機と、これらをテーマにした展示等の取組み、戦中・戦後の写真等の身近な資料のデジタル・アーカイブ化と公開、この時期新たに登場してくる感熱紙・VHS・フロッピーといった新しい記録媒体の脆弱性とその保存、記憶を記録化するオーラル・ヒストリーの取組み等について会員を中心に情報を集め、アレンジした特集を組んでいく方向がでてきた。

- ・その他の「ネットワーク」「書評と紹介」などのシリーズを含め、8 月の委員会まで各自情報収集を続け、アイデアが浮かんだらメール等で流すよう申し合わせた。

○その他

a 次回開催場所と日時（（2）b 参照）

b その他報告事項

- ・事務局からの会議連絡を、今後原則として役員会同様に pdf でメールに添付して行うことを提案し、おおむね承認された（職場の事情で難しい委員には、従来どおり郵送で行う）。